

2023 年 学校関係者評価
報告書
(2022 年度)

学校法人滋慶学園
東京スポーツ・レクリエーション専門学校

作成日：2023 年 6 月 6 日

学校法人 滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校

2023 年 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：中村 裕子

1. 開催日時 2023 年 6 月 6 日（火） 15:30～18:00
2. 開催場所 東京スポーツ・レクリエーション専門学校
3. 委 員 学校関係者評価委員 ※敬称略
采澤 考 卒業生代表（スポーツインストラクター科）※委員長
阿部 幸夫 近隣関係者代表（フィリーゴ西葛西店）
小倉 勉 業界代表 （東京ベルディ）
前田 弘 業界代表 （公益社団法人 日本サッカー協会 アスレティックトレーナー）
森 章 高校関係者（拓殖大学紅陵高等学校 学校長）
坂井 伸一郎 業界代表（株式会社ホープス 代表取締役）
牧野 幸生 保護者代表（スポーツ科学トレーナー科）

学校職員

関口 正雄	東京スポーツ・レクリエーション専門学校	学校長
後関 慎司	〃	副学校長
岩村 勇	〃	運営本部長
藤本 拓也	〃	事務局長
木村 早希	〃	教務部長
真田 信	〃	広報センター長
中村 裕子	〃	学生サービスセンター長
青木 雅史	〃	高校・地域連携センター長
伊藤 忠男	〃	キャリアセンター

4. 会議の概要

（1）学校長挨拶

学校関係者評価委員会の在り方は、学校側から報告する自己点検・自己評価に
対してご意見をいただくものであり職業実践専門課程で義務付けられている
もの。企業との連携を認定条件とする制度。認定を受けているのは1800の

学校のうち4割程度である。その他9つの認定要件を満たしているのかチェック項目は多い。

本校には4年制の学科があり高度専門士の称号が取得可能。国際標準教育分類では大学の学部卒と同等の6段階に位置付けられる。学習のゴール設定を作り企業と連携しどんな学習成果を求めるのか考える必要がある。委員の皆様には忌憚なきご意見、評価をいただき精度の高い教育を実践していきたい。

(2) 運営本部長 岩村より

滋慶学園は今から50年ほど前に歯科技工士の学校からスタート。現在は81校の専門学校を運営している。滋慶学園グループの中では9校、スポーツ系の学校がありネットワークを活かして教育部会という活動を行っている。このようにネットワークを活用するのはもちろんのことだが、ひとつひとつの学校が学生、保護者、高等学校、業界、卒業生、地域の信頼を得ながら環境の変化に対応した学校づくりが大切だと考えている。そういう意味でも学校関係者評価委員会の重要性は高まっている。本日は是非、意見交換を通じてより良い学校運営をしていきたい。

(3) 学校職員紹介

(4) 学校関係者新委員の紹介

牧野 幸生 保護者代表

スポーツ科学トレーナー科 1年

スポーツトレーナースペシャリスト科 2年

2名ともサッカー部所属

(5) 2022年度事業報告 藤本局長

◆教育数字

中途退学 目標(4.3%) 実績(4.1%)

進級率 目標(92.2%) 実績(93.2%)

退学者数は学科によってバラつきがあるものの、昨年課題となった学科が改善できたことで目標達成に至った。

◆資格合格実績

A T理論 2021(27.0%) 2022(30.8%)

A T実技 2021(86.1%) 2022(84.2%)

J A T I 2021(48.7%) 2022(46.3%)

N S C A 2021(30.0%) 2022(45.5%)

健美 2021(45.0%) 2022(52.4%)

A T 試験は対策会議で教授力の向上、学生への特別講義等の対策がある。
他の試験に関しても同様の取組みと学生への動機付けが必須。

◆広報実績

2022年度入学者 目標(350名) 実績(342名)

来校とWEBのハイブリット広報を継続しており、WEB参加者数も多く目標達成を見込む場面もあったが、競合校もWEBを導入したことで手軽に複数校と比較ができる状況となっしまい差別化を持たない学科は苦戦した。

◆就職実績

卒業式までの就職内定率 目標(100%) 実績(99.4%)

最後の1名が4月内定となった。学内で企業説明会等も実施をしたが情報を自ら取っていく学生は問題なく就職活動を進めていった。実習から就職に繋がる実績もあり、実習前教育は重要な位置付けである。

◆トピックス

- ・2023年度から海外研修を再開。研修内容を企画している。
(ドイツ、カルフォルニア、フロリダ)
- ・部活動大会再開。
(サッカー、フットサル、バスケ、野球、ダンス、バドミントン)
- ・2022年度よりTSR主催のバスケットボール大会(Xカップ)実施。
大会の企画、演出、トレーナー活動を行った。2023年度も実施。

(6) 2022年度評価報告内容に関する質疑応答および委員からの意見

※議長 卒業生代表 采澤 考 (●委員 ○学校)

1. 教育理念・目的・育成人材像

●教育課程編成委員からはどんな意見が出てカリキュラムに反映をさせているのか。

○アスレティックトレーナー系・・・1年生から課題解決の対策をしていったほうがいいのでは、高い水準での資格合格に向けた授業が必要なのではという意見をいただいた。もともと資格対策授業はあったが、それ以外に夏休み期間中に1,2年対象とした勉強合宿(座学、実技)を取り入れた。

インストラクター系・・・美意識を問われる現場である。自分自身が磨かれる授業が必要なのではという意見をいただいた。ボディメイクの授業で自分の体づくりを取り入れた。

2. 学校運営

- 「学びに見える化」する具体例を教えてください。

○学校の特徴として学校の軸となっている CLUB-TSR の取り組みを学校 HP 等を使い認知を広めている。またオープンキャンパスで説明するだけでなく、DM等の資料も作成し高校生や高校の先生にも知ってもらおう働きかけをしている。

- 次回の委員会では、学習の様子も見学をさせてほしい。

教室が全てガラス張りになっているので多くの人に学生の様子を見てもらいやす環境になっているのでは。

公開授業等を企画するといいいのではないかな。

○各学科で学習成果を発表する機会も意識していきたい。

- 人材育成の視点での話になるが、変化に対応するためにマインド部分も含め、どのように対応をしているのか。現場の悩みの解決方法は。変化が起きてくると過去の成功事例が通用しなくなる。

3. 教育活動

- 成果の出ない授業は講師を変更等という話があったがどのように見直しを図っているのか。A T の資格対策は分かったが、他の資格について教えてほしい。

○前年、前々年と資格の合格率が振るわなかった先生は他の先生にお願いをしている。先生の教え方だけでなく、全学生に実施をしている生活実態調査で家庭での勉強時間が0分という学生が半数ぐらいいる。このような学生には資格の内容だけを教えるだけでは合格に繋がらない。担任が学生の層に合わせ問題の読解力を向上させる補習を始めている。

- スポーツが好きな子が、勉強も好きということは少ない。基礎学力の向上に取り組んでいることはあるか。ホームルーム前に朝学習（学び直し）5分程度を毎日継続すると変化がある。読解力に変化が出てくる。

- 企業でも伝える研修を行っている。トレーナー、アナリストは伝えることも大切。相手が理解することで仕事がスムーズに進む。コミュニケーションを高める取り組みが必要。

4. 教育成果

- 民間スポーツクラブは健実で手当てが出る。チームもA Tを持っていれば確実に収入が違う。資格対策で抜本的に変えたことはあるのか。

○昨年、健実の授業を受けた学生は40名を超えていたが、実際の受験者は11名だった。授業内容を確認すると原因は読解力で、回答までたどり着けていない。講師と担任から学生が理解するように資格の意味合いを伝えていかなければいけない。中高、部活を一生懸命やっていた学生が多かったので興味が他の部分にある。

●町おこしの一環で国交省が健康施設を立ち上げる動きが出ている。健実が必須の資格になっているので将来を見据えて資格の重要性を伝え学生のやる気に繋げていくといいのではないかな。

先日、高校のバスケの監督と話したが、コロナの影響で中学時代に部活をともにやってきていない生徒は毎日部活をする意識がない。今後、そのような学生が入学してくるので多くのことを経験させる機会が必要。

5. 学生支援

●日常の話を学生は家でしているのか。

○WBCのアナリストが来校した話を熱心にしていた。

スポーツクラブに通いだしたので、息子にインボディの数値を基にアドバイスをもらっている。スポーツクラブでの指導の意味が分からず、家で息子から解説を聞いている。

6. 教育環境

●江戸川区との災害時協力協定とは具体的にどんなものか。

○2つ結んでいる。

1つ目はトリアージ。医療機関に搬送前に重症度の段階付けをする場所の提供をする。

2つ目はTSRだけではなく、葛西地区の滋慶学園グループ校で各校2教室程度を帰宅困難者に提供。

協定の内容については毎年、見直しを行っている。災害時には学生の状況に応じて、受け入れを承諾した場合のみ提供となる。

●学生時代、交通費が無いため行きたい実習先に行けなかった経験がある。いまでもそのような状況なのか。

○学科によるが、実習先に交通費やアルバイト代の支援をしてもらえるように交渉をしている。一部、学校が交通費を負担するケースもある。

●実習時間を増やすことで経済的に厳しい学生が出てくると思うので学校側も考えてあげてほしい。

7. 学生の募集と受け入れ

●業者にガイダンスをお願いすると中間業者が選定した学校が来ているようだ。例えば、学生の母校の部活へのアドバイスということで、学生を派遣する。これから中学校の土日の部活が無くなる。中学生がスポーツをする場が少なくなるため、外部に頼ることになる。学生達を実習ということで、中高の部活動に関わらせることで学生募集につながるのではないかな。

○高校と部活動を繋ぎ、部活サポートをする取り組みを始めている。今後、連携する学校を増やしていきたい。

8. 財務

●在校生数は事業計画の予算上の人数とあっているのか。

○3年前くらいは苦戦していたが、回復してきており現状はほぼ計画通りになっている。

9. 法令等の遵守

●外部機構「TRUSTe」とは何か。

○学校には個人情報が多い。その個人情報をプライバシーガイドラインに基づいて取り扱うために外部機構にて取り扱う個人情報のステージに応じた研修と試験を実施し、適合事業所として認定を受ける。認証マークを「TRUSTe」と呼ぶ。

●昔は夜遅くまで学校に電気がついており先生たちが勤務していたように思うが今の時代はそのようなことが無い。何を工夫すれば、早く帰れるようになるのか。資格対策や、面談等の多くの業務を抱えているように思うがどのようにすれば就業時間内に業務を終わらせられるのか。

○残業を意識するため、年間の残業（勤務）シュミレーションを立て、毎月確認を行っている。やること、やらないことの線引きを明確にする。有給取得を含めチームの体制で動いているが、他部署との連携も重要視している。学科長および学科長同士でマネジメントをしている。

10. 社会貢献

●中学の部活が無くなると、野球やサッカーなどのクラブチームが確立されていない競技は活動する場が無くなる。空いてしまった学校体育館を利用してクラブトレーニング等、TSRにはお願いできるコンテンツがあると思っている。

○社会貢献の一つとしてスポーツのスキルを提供していきたいと考えている。

○埼玉県では地域指導員という動きが出てきている。指導できる競技や活動できる曜日時間等を登録することで依頼される。

動きは他府県にも広がってきているので、CLUB-TSRの中にも地域指導に関するセクションを作ることを考えてはどうか。

(7)閉会の挨拶 後関副学校長

長時間ありがとうございます。大変、建設的な会議で勉強になりました。学生達、若い教員達にも伝えたい話が沢山ありました。そしてこれからいい学生を育てていきたいと感じました。

以上